

第2回鹿野地域振興未来会議 議事概要

日 時：令和8年7月1日（水） 午後1時30分～午後3時20分

場 所：鹿野町総合支所 2階 会議室

【出席委員】 三谷裕之、筒井洋平、森村繁一、長谷川誠一、兼平 恵、砂川重雄、
上山秀雄、佐々木千代子、山名 修、田中奏子、津田夏海
以上11名（敬称略）

【欠席委員】 山根裕太 以上1名（敬称略）

【説明者】 鳥取市こども家庭局 小野澤局長
鳥取市こども家庭センター 森田所長
鳥取市資産活用推進課 福井次長
鳥取市スマートエネルギータウン推進室 大角室長
株式会社エーゼログループ地域創発研究所 松崎所長

【事務局】 <鹿野町総合支所>
小林支所長、西垣副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室
長）、國森産業建設課長、岡田市民福祉課長、宮本地域振興課課長補佐

【傍聴者】 なし

【日 程】

1 開会

2 会長あいさつ

3 議題

- （1）乳幼児健康診査の実施体制の見直しについて
- （2）公共施設再配置の推進に向けたワークショップの開催について
- （3）自然資本産業創造の取組みについて

4 報告事項

- （1）行事経過報告及び今後の予定について

5 その他

6 閉 会

◎議事概要

3 議題（１）乳幼児健康診査の実施体制の見直しについて

<説明者より資料１に基づき説明>

【委員】まずは保護者の意見が重要だと思う。現在は６回の健診しかないが、駅南庁舎になれば３６回となる。買い物ついでに受診することも可能なので、メリットがあると思う。

【委員】近くの保健センターで受診でき、両方が選択できると周辺部としてはありがたい。

【委員】メリットの中に専門職による手厚い支援とあるが、現在でも各ブロック単位の健診の時にも保健師や栄養士などが配置されているのではないかな。

【説明者】駅南庁舎には様々な子育て支援の窓口があり、多くの専門職員が対応するので幅広くきめ細やかな対応ができるようになります。

【委員】日頃から相談して信頼関係のある保健師なら気軽に相談できると思うが、初対面の人にとどこまで相談できるだろうか。

【説明者】駅南庁舎の健診でも地域の方の受診日を大体同じ日にして、地域の担当保健師が交代で同席できるよう考えています。特性があつたり心配であつたりする場合についても、出産から伴走支援してきている保健師が当番でなくても対応できるように考えています。

【委員】受診者の体調や都合が悪い場合は、今でも駅南庁舎に変更できるのではないかな。

【説明者】駅南庁舎への変更はできますが、ブロックでの受診者が減りすぎるのを避けるため、現状では積極的な周知をしていません。

【委員】駅南庁舎への移動手段がない受診者に対し、保健師が送迎したり、タクシーの手配をしたりすることはできないのか。

【説明者】保健師が送迎することは難しいです。既に駅南庁舎にも遠方から受診される人がいますが、送迎など特別な対応はしていません。

【委員】人口減少に対応した組織の見直しは必要だと思うが、交通の不便な地域の対応が必要だと思う。

【委員】一か所に多くの人が集まれば、感染症のリスクが上がるのでより手厚い対策をお願いしたい。

【説明者】感染症対策については、日頃からマスクや消毒などの対策に努めています。

また、あらかじめ受診時間をずらすなど、同じ時間帯に受診者が集中しないよう配慮しています。

【委員】これまでより待ち時間は長くなるのか。

【説明者】長い時間拘束されるのはみなさん嫌がられます。対応するスタッフが多くなるので受診時間は短くなります。

【委員】西地域の対象者などで健診時間を合わせれば、受診者で車の乗り合わせができると思う。

【委員】中心市街地に住んでいた時に受診したときは知らない人ばかりだった。鹿野で受診したときは知り合いが多く安心感があり、気軽に情報交換や相談ができた。駅南庁舎になっても近隣の地域ごとで受診できれば、知り合いと一緒にに行けたり、相談できたりするのでありがたい。

【委員】発達や育てにくさに丁寧に対応できるとあるがこのことをもっと周知してほしい。健診時に発達特性があることを知って、親も対応できると小学生になったときにもずいぶん違う。発達障害に早く対応できるようにして、家族への支援を充実してほしい。

3 議題（2）公共施設再配置の推進に向けたワークショップの開催について

<説明者より資料2に基づき説明>

【委員】昭和40年代以降、鹿野に限らず全国的に次々公共施設が建てられた。存続・廃止について、次の世代に先送りするのではなく、今の世代で片付けることを念頭に置いて進めていかないと縮小はできないと思う。再配置について具体的にいつするのか明確にしておく必要がある。

【説明者】用瀬のワークショップにおいて、流しびなの館については、年配の方は存続、中学生のグループではいけないという反対の意見になりました。世代で意見が違ふという気付きになるなど、このワークショップが未来につながるきっかけになればと思います。

【委員】ワークショップでは施設を廃止するという話だけでなく、ワクワクするような前向きな話をしてほしい。

【委員】ワークショップが、中学生が地元のことを考え、夢を語る場所になればいい。

【委員】農業の若い担い手は、基盤となる建屋まで投資できない。集落の農機具保管庫や作業場が使われていない状態なので、現況を調査し、若者に使ってもらえる仕組みをつくってほしい。大規模農家を優遇する制度だけでなく、弱者の若者を支援する制度が必要。

【委員】市が所管している作業場を地元に戻しても、使う人がいなければ意味がない。必要な人に使ってもらえるような仕組みづくりが必要だ。

3 議題（3）自然資本産業創造の取組みについて

＜説明者より資料3に基づき説明＞

【委員】なぜ日光でやってみようと思ったのか。

【説明者】環境が非常に良かったです。例えば、一つの川が一つの地域内にあるので、上流と下流の集落で水利権を争うというような問題がなく、一つの集落だけで合意形成が容易でした。日光池は、海の汽水域と川の淡水域が交わり、冬に多くの野鳥が集まる珍しい池です。この池はウナギなどの魚にとって非常にいい環境となっています。その一方で、担い手不足を何とか解消したいという地域の思いが強く、それを後押しする市のサポートがあります。そういったことから日光をモデル地区に選びました。

【委員】行政から手が離れると終息してしまう事例があるが、9年度までの3年間でモノになるのか。

【説明者】やってみないとわからないですが、モノになるよう努力は惜しまないつもりです。3年間でできなくても、5年、10年でもやり続けるつもりで来ています。3年でできる約束はできないが、やり続ける約束はできます。

【説明者】市としては、内閣府の地域未来交付金を財源とした地方創生に対する取り組みとして、9年度までの3年間で1億6千万円程度の支援を行う予定です。

【委員】大きなお金を使う事業なのでプレッシャーがあると思うが、地域にある種をどんどん大きく育ててほしい。

【委員】これまでエーゼログループが全国で取り組んだ事業の中で、成功事例があれば具体的に教えてほしい。

【説明者】 実はエーゼログループが自然資本産業に関する取り組みをするのは今回が初めてです。これまで直営事業として木材加工、養蜂、ジビエ、水田などに取り組んできました。これらの事業を他地域でも展開しており、北海道厚真町では今年度で11年目、鹿児島県錦江町では4年目、事業者の育成や移住起業者を増やす取り組みなどを行っています。

【説明者】 エーゼログループが拠点を置いている岡山県西栗倉村は、移住者の起業創業により村全体の課税所得が20年前に比べて増加した“奇跡の村”と呼ばれています。エーゼログループはかなりの実績があり、全国からも注目される企業です。

【委員】 西栗倉村の木材加工は、「百年の森林（もり）構想」などの取り組みで有名になっている。これまでのノウハウを活かした活動を日光でも取り組んでほしい。

【説明者】 モニターツアーにおいて、日光の自然資本、鹿野町の歴史的資産などを組み合わせたプログラムにすることができます。まちづくりに関しては、鹿野町は遙か先に進んでおられるので、いろいろ教わりながら一緒にさせていただきたいと思っています。

【委員】 モニターツアーでは具体的にどんなことをするのか。

【説明者】 日光では、スズメバチの巣を手づかみで取ってくるような“野遊びの達人”のスタッフと一緒に、ジビエ体験などの“野遊び”をするようなモニターツアーを計画しています。イノシシをさばくところと一緒に見たり、ジビエと日光生姜と一緒に食べたり、都会では体験することのできない非日常的なものになると思います。現在、そういった様々な体験メニューづくりをしているところ です。

【委員】 企業向けの社員研修も受け入れるのか。

【説明者】 企業からは、社員が自然環境の中でゆっくり過ごし、リラックスした状態でコミュニケーションを磨くような研修を希望されることが多いです。2泊3日程度を想定していますが、宿泊先を山紫苑や気高町の旅館にすることで、少しでも地域の産業に貢献できればと考えています。

【委員】 環境の指標を大事にしたいということだが、自然が良くなることをどう測るのか。

【説明者】 例えば、環境DNAという指標があり、水を採取してDNAを分析すれば、

どんな生き物がどれぐらいのエリアにいるのかを推定することができます。

3 議題（４）その他 鹿野まち普請の会のアンケート調査について

<事務局より説明>

【委員】 まちづくり計画をこんな風に変えますというところまででなくても、まずは、こんなアンケート結果が出たという報告会をしてほしい。

【委員】 11月の公共施設ワークショップで、アンケート結果の報告をしてもいいのではないかな。

4 報告事項（１）行事経過報告及び今後の予定について

<事務局より資料４に基づき説明>

【委員】 8月30日に鹿野ふるさとミュージカルを開催する。新聞にも掲載いただいたが、今年のメンバーは士気が高く、集中して練習に取り組んでいる。皆さんぜひ見に来てほしい。

【委員】 障害のある方との交流を目的としたカフェを気高と青谷で開催している。鹿野でも開催しようと、これまで社協や支所保健師と準備をしてきた。今年4月から毎月第4水曜日にクチュールシカノで「まるっとカフェ」をスタートした。鹿野では障害のある方だけでなく、どなたでも参加できる“みんなの居場所”になることを目指しているので、多くの方に集まっていただきたい。